
アデリープランニング株式会社
ポジティブインパクトファイナンス評価書

発行日:2026年7月10日

株式会社琉球銀行は、アデリープランニング株式会社(以下、「アデリープランニング」または「同社」)に対してポジティブインパクトファイナンス(以下、「PIF」)を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト(ポジティブな影響及びネガティブな影響)を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ(UNEP FI)が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド(モデル・フレームワーク)、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、琉球銀行が独自に開発した評価体系に基づいている。

目次

1.企業概要と理念、サステナビリティ	
(1)企業概要	4
(2)会社沿革.....	5
(3)ミッション・ビジョン.....	6
(4)組織体制.....	7
(5)本社及び adeliaeLab(営業・研究開発拠点)について.....	7
(6)各種事業について	8
(7)adeliaeXR [®] 事業について	9
(8)サステナビリティへの取り組みについて	12
2.インパクトの特定	
(1)バリューチェーン分析.....	12
(2)インパクトレーダーを用いた分析	15
(3)同社の事業活動のインパクト分析	16
(4)特定したインパクト.....	20
(5)インパクトニーズの確認	22
3.KPI の設定	26
4.モニタリング	28

1. 企業概要と理念、サステナビリティ

(1) 企業概要

アデリープランニング株式会社は、「ワクワクする未来を、カタチに。」を掲げ、XR、AI 経営支援、事業企画・戦略立案支援、データマーケティング、ResortStyle、自社メディア運営、Web／コンテンツ制作など幅広い事業を展開するビジョン具現化カンパニーである。次世代 XR シアター「adeliaeXR®」に代表される先端表現力に加え、20 年以上培ってきた事業整理・資料作成支援の実績を基盤とした AI 経営支援が強みとなっている。



また、Web 構築や UI 設計※1、コンテンツ制作では、大手企業との豊富なプロジェクト経験を持ち、品質・スピード・コストパフォーマンスに優れた制作体制を確立している。実績に裏打ちされた技術力と顧客視点に基づく提案力により、単なる制作会社ではなく、ビジネス成長を共に創るパートナーとして高く評価をされている。

顧客の想いに深く寄り添い、企画から運用まで一貫伴走する姿勢を大切に、人・企業・社会をつなぎながら、未来の価値創造に貢献する企業である。

同社は、4つの事業を通じて、ワクワクをカタチにしている。

1 AI経営支援・事業企画支援



2 adeliaeXR®



3 デジタル戦略・DX推進事業



4 ResortStyle事業



※1UI 設計:ユーザーが操作するアプリや Web サイト上での画面やボタンなどの見た目・操作性を設計すること。
(写真:同社 HP より)

企業名	アデリープランニング株式会社
本社所在地	〒900-0014 沖縄県那覇市松尾二丁目22番21号
代表者名	代表取締役 榎本 泰子(まきもと やすこ)
設立年月日	2006年5月25日
従業員	4名(2026年3月末時点)
資本金	500万円
売上高	337百万円(2026年3月期)
事業内容	AI 経営・事業企画支援事業 adeliaeXR®事業 デジタル戦略・DX 推進事業 ResortStyle 事業
営業・ 研究開発拠点	adeliaeLab 〒212-0032 神奈川県川崎市幸区新川崎7-7KBIC本館203

(2)会社沿革

2006年5月	法人設立。神奈川県にて IT 情報サービス業を開始。
2009年1月	埼玉県にて削蹄事業部を開始。
2018年8月	旅行事業部(第3種)を開始。
2023年4月	事業拠点を沖縄県へ移転。沖縄本社と横浜本社の2拠点で事業を拡大。 リゾート地域ならではの立地特性を活かし、観光・地域事業者向けの企画・デジタル支援を強化。
2024年3月	旅行事業部閉鎖。
2024年3月	削蹄事業部を閉鎖。IT 事業に特化した事業形態となる。
2024年7月	XR 事業を開始。新規事業として、新世代 XR シアター「adeliaeXR®」の企画・開発に着手。不動産、展示、研修、プロモーション分野での活用を想定した実証を開始。
2025年2月	新川崎 KBIC に XR 事業の拠点「adeliaeLab」を設置。 「adeliaeXR®」の開発を本格化。
2025年7月	横浜本社を閉鎖。本社機能を沖縄本社へ集約する。
2026年5月	新川崎「adeliaeLab」に支社を設置。XR 事業の拠点とする。 AI 経営支援、DX 推進事業、自社メディア事業との相乗効果を図った事業展開を推進。

(3) ミッション・ビジョン

同社では、ミッション・ビジョンとして以下の通り、掲げている。



ミッション・ビジョン

のびのびと、活き活きと、共にワクワクを。

私たちはお客様の事業やビジョンに深く寄り添い、その想いをカタチにすることで、『心が動く瞬間=ワクワク』を創り出しています。

Co-Creation 共に創り、共に歩み、共に成長する。

人と人、人と企業、企業と企業をつなぎ幸せな未来を共創

創業以来大切にしてきた5つの価値観

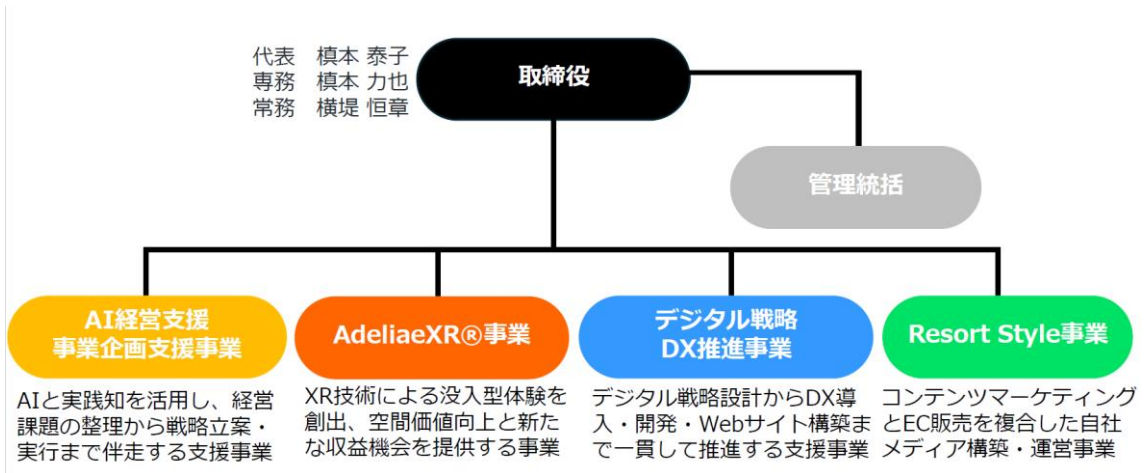
- 01 **お客様との関係を大事にすること**
一時的な取引ではなく、長期的な信頼関係の構築を重視しています
- 02 **チームを大事にすること**
多様な個性と才能が融合するチーム作りが、革新的なソリューションを生み出します
- 03 **プロとして高い次元の仕事をする**
妥協なき品質追求と、常に学び続ける姿勢を大切にしています
- 04 **自律的・能動的、そして自由であること**
型にはまらない自由な発想が、新しい価値を創造します
- 05 **自分たちが人生を楽しむこと**
私たち自身がワクワクすることで、お客様にもワクワクを提供できると信じています

<私たちの価値観が、今この時代にこそ必要とされる理由>

この大きな時代のうねりの中で、私たちアデリープランニングが創業以来 20 年にわたり実践してきた『想いをカタチにする力』が、かつてなく重要になっています。

私たちは『新時代の価値創造をリードする、ビジョン具現化カンパニー』として、お客様一人ひとりが持つ「生まれてきた意義」や「自己の使命」という尊いビジョンに寄り添います。

(4) 組織体制



(5) 本社及び adeliaeLab(営業・研究開発拠点)について



(6)各種事業について

1 AI経営支援・事業企画支援



同社は、4つの事業を通じて、ワクワクをカタチにしている。それぞれの事業について紹介を行う。創業以来 20 年以上にわたり、プライム上場企業や自治体のお客様に対して、事業企画やデータマーケティング、各種資料作成支援をサービス提供している。そのノウハウを基盤に、AI による分析・シミュレーションと人による判断・設計を組み合わせ、計画策定から実行まで、中長期視点で経営全体を見据えた伴走支援を行っている。

2 adeliaeXR®



大型シアター級の没入感をコンパクトな空間で実現する次世代 XR シアター「adeliaeXR®」を企画・開発。場所の制約を超えて、映像・音響・空間演出を融合した体験価値を提供し、展示・研修・プロモーション分野への展開も視野に、次世代の体験共有・コミュニケーション基盤を創出する。同事業については、後述で詳細の紹介を行う。

3 デジタル戦略・DX推進事業



デジタル戦略の立案から実装までを一貫して推進し、DX ツールの導入や独自システム開発を通じて、業務効率化と売上向上を実現している。あわせて、Web サイト・EC サイト構築、写真・動画制作、コピーライティングまでを統合し、高品質なデジタル基盤とコンテンツを構築することで、成果につながる情報発信を実現している。

これまでに、「マイクロソフト MSN」や「JTB Hawaii ホテル Web」などの大型ポータルサイト構築や Web システム開発を手がけてきた実績を有しており、特に UI/UX デザインを重視した設計力を強みとしている。また、経営支援事業および自社事業(ResortStyle)の運営を通じて培った知見を活かし、集客・成約・運用までを見据えた、実践的かつ継続的な DX 推進を行っている。



慣づくりと地域の健康促進を目的に、体験型イベントも実施している。

さらに本取り組みは、発信や販売にとどまらず、運営を通じて価値創出と収益化のプロセスを検証し、その知見をお客様の Web サイト構築や経営支援へと活かしている。本事業を通じて、ライフスタイル領域における価値創出と収益化モデルの確立を推進している。

Travel × Beauty × Wellness を軸に、コンテンツマーケティングおよびオンライン販売導線の研究・実証を目的とした自社メディアとして、リゾートライフスタイル領域の情報発信と物販を展開している。

Resort Style:<https://resort-style.com/>

取扱商品は、同コンセプトに基づき厳選したものに特化し、なかでも健康分野では、身体をいたわる習

(7)adeliaeXR[®]事業について



圧倒的な没入感を、コンパクトな空間で。「どこでも XR」を実現する、次世代 XR シアターを同社にて開発・サービス提供を実施している。

XR(エクスアール)とは、現実世界と仮想世界を組み合わせ、体験や理解を拡張する技術の総称である。具体的には、仮想空間に入り込む VR、現実の映像に文字や 3D 情報を重ねて表示する AR、現実空間と仮想物が相互に影響し合う MR をまとめて指す。近年は技術の進化によりこれらの境界が曖昧になり、「XR」という包括的な言葉が使われるようになってきている。XR は、図や文章では伝えにくい内容を体験として直感的に理解できる点が特長である。

「adeliaeXR[®]」は、VR ゴーグルなどを使用せずに VR 空間を体験でき、設置や操作に特殊

な技術を必要としないストレスフリーな XR シアターである。

大きな特徴として、ショールームや小規模オフィス等のコンパクトなスペースに設置が可能なこと、複数人が同時に没入できるリアルな体験を提供できること、また、シーンに合わせて映像・CAD データなどのコンテンツを差し替えができ様々な体験をすることが可能なこと、さらに利用者自身がコントローラーで視点の移動やシーンの切り替えができるため自己制御による VR 空間にも浸れることなど、これまでにない「参加型体験」を提供する。

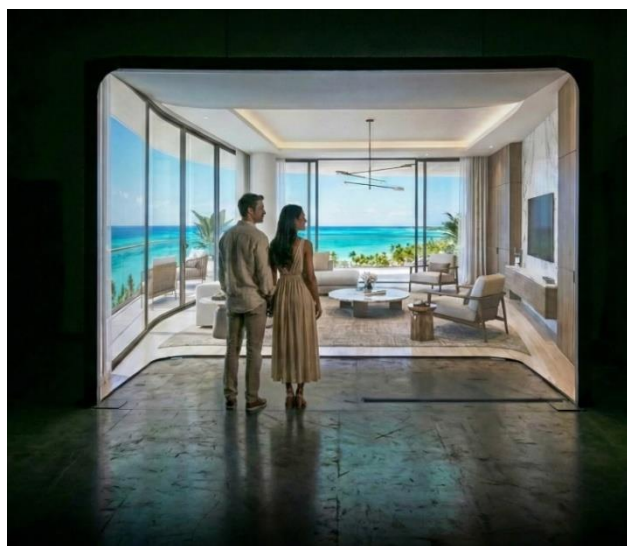
今までの VR イベントは大規模なスペースに大掛かりな設置・投資や VR ゴーグル装着によるストレスや孤独な体験などといった課題が存在していた。一方、「adeliaeXR[®]」は圧倒的なコストパフォーマンスの実現と繰り返しイベントが実施できる点、また VR ゴーグルを装着せず複数人が話し合いながら同じ空間に浸れる点など、これらにより、従来課題の解決と革新性の両面を備えたサービスである。

以下では、想定する活用方法を紹介する。

不動産業界での活用方法として、モデルルームでの活用が期待できる。単に室内の間取りを確認するだけでなく、モデルルームの窓の外の景色を「朝」「昼」「夜」と切り替えることもでき、これまでのモデルルームよりも様々な環境下の生活を想定することができる。

加えて、データを入れ替えることで、複数の物件を同じ場所で感じることもでき、顧客の利便性向上にもつながる。

そのことにより、毎回、モデルルームを建設しなくてもよくなるため、建設コストの削減につながるだけでなく、建築・解体に伴う廃棄物量の削減や建築・解体に伴う CO2 排出量の削減も期待できる取り組みとなっている。



【モデルルーム活用イメージ】

さらに、家族写真やウエディング撮影での活用もできる。ロケーション(現場)撮影でのネックになっていた悪天候や移動の負担、季節などの制約を解消することができ、スタジオにいなから、好きな場所は勿論、自分が過去に撮影したお気に入りの背景で撮影することができる。スタジオに設置すれば、段差のない場所での撮影も可能なため、車いすを利用している方や子どもも安心して撮影することが可能になる。

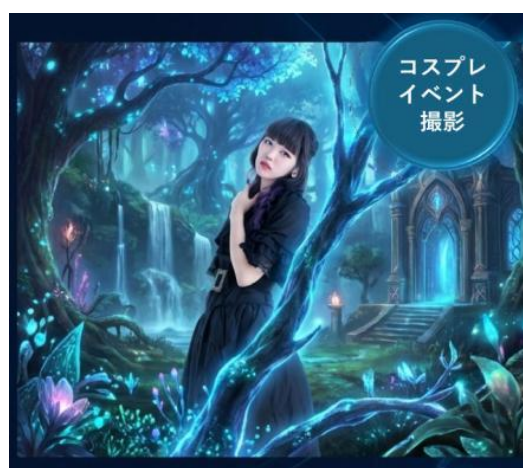


【家族写真撮影活用イメージ】



【ウエディング撮影活用イメージ】

同社が開発した「デプス合成システム」を利用することで、「adeliaeXR[®]」の映像の世界に自分を送り込むことも可能である。adeliaeXRに映し出される奥行き情報を持つ背景映像と人物(=自分)をリアルタイムで合成するだけでなく、映像内の立体物の後ろに人物が隠れたり、前に出たりするといった三次元的な動きを実現。憧れのキャラクターやアイドルなどと同じ世界に立ち、映像のなかで物語の主人公になる体験も可能になる。



(7)サステナビリティへの取り組みについて

同社では、女性活躍推進法に基づく行動計画を策定し、行動計画の実施や認定制度(えるぼし・プラチナえるぼし)を通じ、多様な人材が活躍できる職場環境づくりを目指している。

「女性活躍推進法」は、働く女性が能力を十分に発揮できる社会を実現するために2015年に制定された法律で、企業に女性の活躍推進に向けた行動計画の策定や情報公表を促すものです。同社では、以下の取り組みを実施することを掲げている。

- ① 在宅勤務可能な業務は原則在宅勤務を認め、必要に応じて出勤業務と併用できる柔軟な勤務体制を継続する
- ② フレックスタイム制度を継続し、家庭や個人の事情に配慮した勤務時間の選択を可能とする
- ③ 年2回の従業員面談を実施し、制度利用状況や勤務環境に関する意見を聴取、改善点を検討する。
- ④ 外部研修やオンラインセミナー等への参加を推奨し、男女問わずスキルアップとキャリア形成を支援する。

また、同様に次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画を策定し、育児休業制度のパンフレット作成を行い、同制度の周知を図ることや子どもの学校行事へ参加するための休暇制度の導入などを実施している。

2.インパクトの特定

(1)バリューチェーン分析

これまでの内容で、同社の事業内容及びサステナビリティ活動について詳しく理解を進めてきた。これらの内容を踏まえた上で、以降では、同社の事業活動が経済・社会・環境にもたらすインパクトを特定し、評価していく。

そのため、同社のバリューチェーンを把握し、同社の事業活動と関連する業種を国際標準産業分類における業種コードで整理をする。

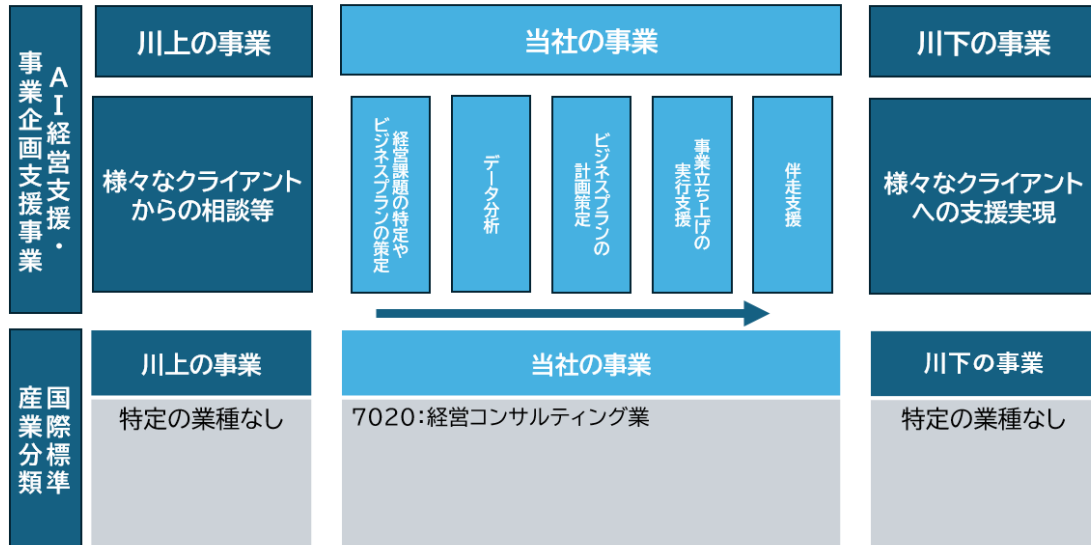
同社の主力事業である「AI経営支援・事業企画支援事業」、「adeliaeXR[®]事業」、「デジタル戦略・DX推進事業」、「ResortStyle事業」について、下記の通り、整理を行った。

同社の事業は複数にまたがっているため、「コンピュータ・プログラミング業(ISIC:6201)」「コンピュータ・コンサルタント及びコンピュータ設備管理業(ISIC:6202)」「経営コンサルティング業(ISIC:7020)」「自然科学・エンジニアリング研究・実験開発業(ISIC:7210)」として分類を行った。川上の事業については、原則、様々な業種のクライアントから相談等を受けることになるため、3事業については、特定の業種の該当はないものと整理を行った。「Resortstyle事業」については、ECサイトでの物品販売があるため、代表的な業種の整理を行った。「石けん等、香水及び化粧品類製造業(ISIC:2023)」として整理を行った。

なお、川下の事業については、取引先が主に企業や個人といった様々な方が顧客となるため、特定の業種は該当しない。

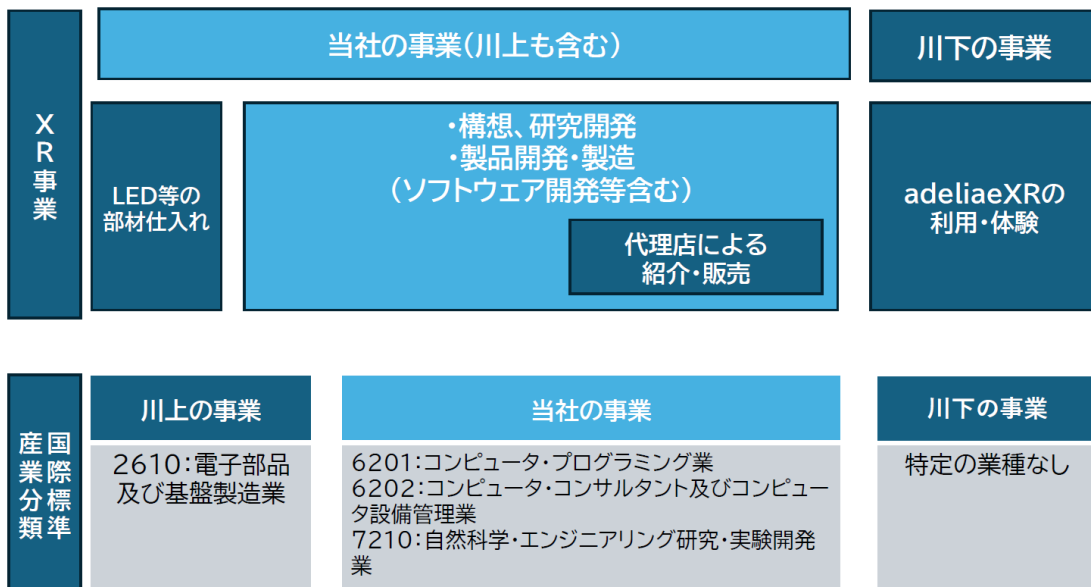
【① AI 経営支援・事業企画支援事業】

①AI経営支援・事業企画支援事業のバリューチェーン

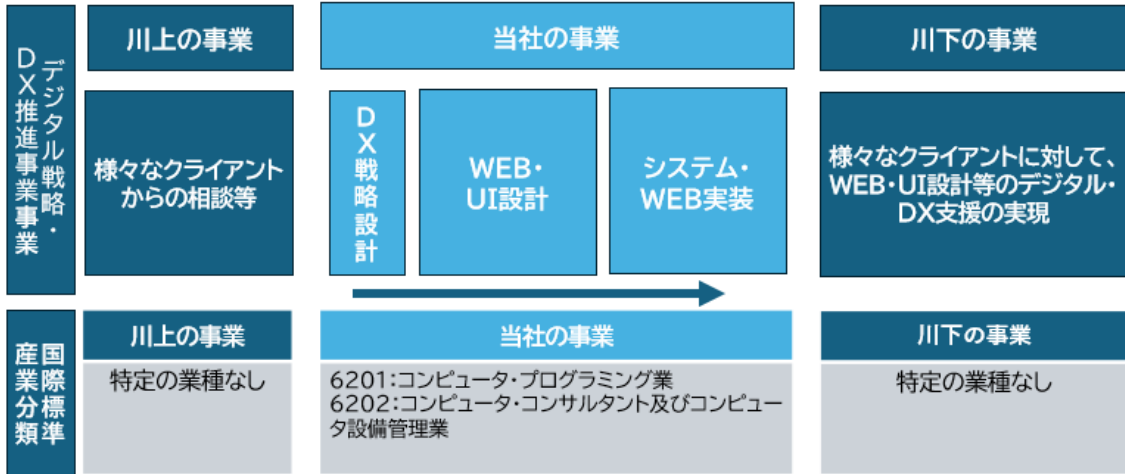


【② adeliaeXR®事業】

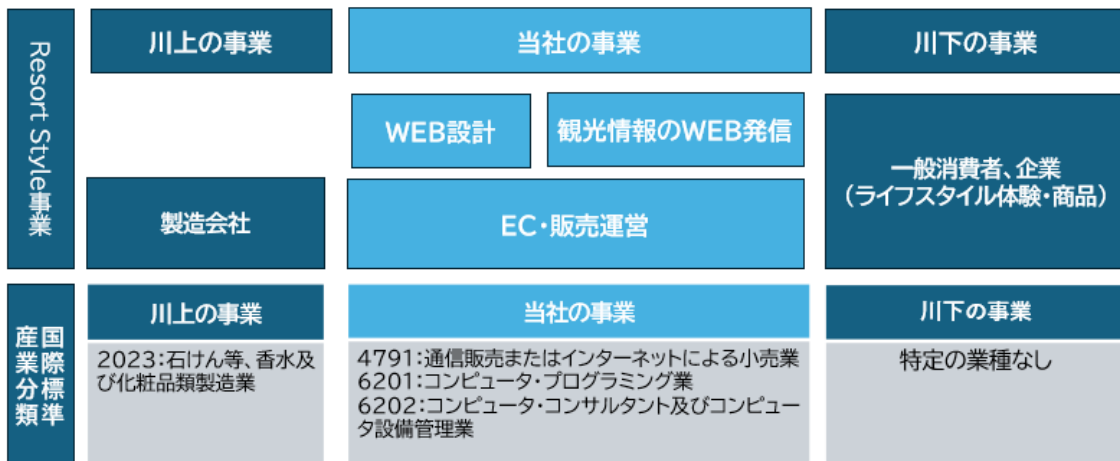
②adeliaeXR®事業



【③ デジタル戦略・DX 推進事業】



【④ Resort Style 事業】



(2)インパクトレーダーを用いた分析

(1)のバリューチェーン分析に基づき、インパクトマッピングを実施する。同社の事業および川上、川下の事業を国際産業標準分類(ISIC)上の業種カテゴリに適用させた上、UNEP FIが提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」(以下 PI)と「ネガティブインパクト」(以下 NI)を想定する。

インパクト種類	インパクトエリア	国際産業標準分類 インパクトカテゴリー	当社の事業												
			【7020】 経営コンサルティング業		【6201】 コンピュータ・プログラミング業		【3821】 コンピュータ・コンサルタント 及びコンピュータ設備管理業		【3821】 自然科学・ エンジニアリング研究・ 実験開発業		【4791】 通信販売またはインターネットによる小売業				
			ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ			
社会	人格と人の安全保障	紛争													
		現代奴隷													
		児童労働													
		データプライバシー				○			○					◎	
		自然災害													
	健康及び安全性	健康及び安全性		○		○			○	○	○			○	
		水								○					
		食糧								○					
		エネルギー								○					
		住居								○					
		健康と衛生								○					
		教育									○				
		移動手段									○				
		情報													
		コネクティビティ				○			○						
		文化と伝統													
		ファイナンス													
		生計	雇用		○		○			○				○	
			賃金	○	○		○			○			○	○	
			社会的保護		○								○		○
ジェンダー平等			○				◎		◎						
平等と正義	民族・人種平等		○												
	年齢差別		○												
	その他の社会的弱者		○												
	強固な制度・平和・安定	法の支配													
社会経済	市民的自由														
	健全な経済	セクターの多様性									○				
	帯細・中小企業の繁栄	○		○				○			○	◎	○		
	インフラ	インフラ								○					
自然環境	経済収束	経済収束経済収束								○					
	気候の安定	気候の安定性気候の安定性								◎					
	生物多様性と生態系	水域									◎				
		大気									◎				
		土壌									◎				
		生物種									◎				
		生息地									◎				
	サーキュラリティ	資源強度				◎			◎		○				
廃棄物			○							◎	○		○		

上記の結果に対して、同社の事業活動について影響を考慮して、修正したインパクトエリアとインパクトトピックは下表の通りである。なお、川上の事業については同社が影響を与える範囲が限定的であることから、分析の対象外とする。

(3)同社の事業活動のインパクト分析

【共通】

	インパクトカテゴリ	理由
ポジティブインパクト (PI)	雇用賃金	約 20 年に渡る業歴を有しており、同社事業を通じて、雇用を生み出し、適正な給与支給を実現している。

【adeliaeXR®事業】

	インパクトカテゴリ	理由
ポジティブインパクト (PI)	健康及び安全性 健康と衛生	特に XR 事業における「病気やその治療法」に関するポジティブな影響を現時点で評価できない。一方で、工場現場での事故発生時等のシミュレーションを実施することが可能であり、安全性の確保のに向けた訓練等に活用が可能である。
	水	「水資源が乏しい状況下において、安全な飲料水を確保するための方策」とは関係が薄いため、対象外とする。
	食糧	「安全性に配慮した農業の開発や、水不足地域に適した農業技術の導入」については、関係が薄いため、対象外とする。
	エネルギー	XR 事業自体が、エネルギーソリューションではないため、対象外とする。
	住居	XR 事業を通じて、建築や解体を必要とせずにモデルハウスを体験することを可能にする。
	移動手段	XR 事業を通じて、現地へ移動をしないと体験できないことを実現することで、移動そのものの回避や軽減（危険地域への移動など）に活用が可能。
	インフラ	道路や橋を直接建設するものではないが、XR 事業を通じて、インフラ整備を支える・高度化する役割が期待できる。公共施設等の建設前の立体的な可視化や高所作業等のシミュレーションにも活用が可能。

	経済収束	XR 事業が直接的な格差の縮小や是正となるものではないため、対象外とする。
	気候の安定性	XR 事業を通じて、モデルハウス等を体験することができることで、従来、必要とされていた移動や建設・仮設・解体を伴う体験提供を代替できるものと考えられる。移動や工事に起因するエネルギー使用が減少することで、CO2 排出の回避を促し、環境負荷軽減に貢献する。
	水域	「水循環・水システムに対する理解の深化・開発」とは関係が薄いため、対象外とする。
	大気	「大気環境および大気汚染の課題に対する理解の深化、ならびにその解決策の開発および改善」とは関係が薄いため、対象外とする。
	土壌	「生態系に対する理解の深化および生物多様性を保全するための解決策の開発」とは関係が薄いため、対象外とする。
	生物種・生息地	「生態系に対する理解の深化および生物多様性を保全するための解決策の開発」とは関係が薄いため、対象外とする。
	資源強度	XR 事業を通じて、モデルハウス等を体験や福祉・エンターテインメント分野で活用することで、資源効率の高いシステムとして貢献し得る取り組みである。
	廃棄物	XR 事業を通じて、モデルハウス等を体験することができることで、従来、モデルハウス等を建築・解体することによって発生していた廃棄物量の抑制に貢献する。

ネガティブインパクト (NI)	賃金	社会保障制度を適用しており、ネガティブな影響をもたらす可能性は低い。
	セクターの多様性	XR 事業による新領域の事業を実施しているが、セクターの多様性に対するネガティブインパクトは発生しない。

	零細・ 中小企業の繁栄	中小企業の発展におけるネガティブインパクトは発生しない。
	廃棄物	XR 開発に伴い、インキュベーション施設で発生した廃棄物については、施設内の廃棄手順等に則り適切に廃棄を実施している。また、インキュベーション施設以外はオフィスを設けていないため、オフィスからの廃棄物は発生しない。

【Resort Style 事業】

	インパクトカテゴリ	理由
ポジティブ インパクト (PI)	零細・ 中小企業の繁栄 健康と衛生 ※追加したインパクト	同社にて厳選した商品をネットを通じて販売することで、地域事業者の価値発信等に寄与し、製造・販売を実施している企業の発展に貢献する。 travel × Beauty × Wellness を軸としたライフスタイル提案を通じて、日常生活における健康意識の向上と、身体をいたわる習慣づくりを促進している。体験や情報発信により自身の健康状態への気づきを促し、未病・予防の観点から健康維持につながる行動変容を支援している。

ネガティブ インパクト (NI)	データプライバシー	顧客情報については適切に管理をしており、顧客のデータ漏洩への対策は実施済みである。
	社会的保護	社会保障制度に則り、事業運営を実施しており、ネガティブな影響をもたらす可能性は低い。
	廃棄物	EC 販売の包装については、過度な包装を実施せずに適切に実施しており、ネガティブな影響をもたらす可能性は低い。

【AI 経営支援・事業企画支援事業】

	インパクトカテゴリ	理由
ポジティブ インパクト (PI)	零細・ 中小企業の繁栄	課題を持つ様々な企業に対して、同社の AI 経営支援や事業企画支援を実施することで経営力強化に貢献し、経済活動の活性化に寄与する取り組みを実施している。

ネガティブ インパクト (NI)	ジェンダー平等、 民族・人種平等、 年齢差別、 その他の社会的弱者	ジェンダー平等や民族・人種平等、年齢差別やその他社会的弱者に対して、差別を生じることはない。
	廃棄物	オフィスは、設けていないため、オフィスから発生する廃棄物は発生しない。

【デジタル戦略・DX 推進事業】

	インパクトカテゴリ	理由
ポジティブ インパクト (PI)	コネクティビティ	ユーザー視点を重視したUI/UX 設計を実施することで、誰でも迷わず使える画面構成を実現している。また、WEB サイトや EC サイト構築、写真・動画制作などを統合し、高品質なデジタル基盤とコンテンツの構築を実施している。
	零細・ 中小企業の繁栄	WEB サイト等を構築することにより、取引先の情報発信等につながり、事業機会の創出につながっている。

	インパクトカテゴリ	理由
ネガティブ インパクト (NI)	データプライバシー	顧客情報については適切に管理をしており、顧客のデータ漏洩への対策は実施済みである。
	健康及び安全性	育児休業制度や子どもの学校行事参加のための休暇制度を導入することで、健康と安全性を担保することができる労働環境を維持している。また、原則、在宅ワークを実施することで、通勤時間の軽減を図るなどの取り組みを実施している。
	ジェンダー平等	同社の従業員男女構成はほとんど等しく、偏った男女構成比になっていない。また、在宅ワークでの業務がメインであるため、通勤に伴う、通学等への負担も軽減されており、ジェンダー平等を実現している。
	資源強度	レアアースなどを大量に使用するものではないため、該当しない。

(4)特定したインパクト

項目	当社のインパクト
事業成長と持続可能な社会的インパクトの創出	<p>同社は、これまで AI 経営支援、デジタル戦略・DX 推進、コンテンツ制作といった事業を通じ、企業や地域が持つビジョンや価値を具体的な形に落とし込み、中小企業を中心とした経営力強化や情報発信力の向上に貢献してきた。加えて、近年は新規事業として、大型シアター級の没入体験をコンパクトな空間で実現する新世代 XR シアター「adeliaeXR®」の開発・展開に注力している。</p> <p>「adeliaeXR®」事業は、不動産分野におけるモデルルーム体験、研修・展示・プロモーション用途など、従来は現地移動や仮設建築を伴っていた活動を XR 空間上で代替・高度化するものであり、移動負荷の軽減、建築・解体に伴う廃棄物の抑制、資源効率の向上といった環境面での効果に加え、体験価値の共有による新たなビジネス機会の創出を可能としている。</p> <p>今後、同社はこれまでに培ってきた安定した顧客基盤および企画・制作・DX 支援の知見を基盤に、XR 事業を新たな成長ドライバーとして位置づけることで、単なる収益成長にとどまらず、XR 活用を通じた移動・建築・資源使用の削減や、誰もが直感的に理解できる体験提供によるコミュニケーションの高度化を促進し、取引先企業や地域社会に波及効果をもたらすものである。</p> <p>このような取り組みにより、同社は事業成長と社会課題の解決を両立させながら、持続可能な経済活動の拡大に貢献していく方針である。</p> <p>本インパクトは、UNEP FI インパクトレーダーにおいて「住居」「移動手段」「インフラ」のエリアに該当し、社会面および社会経済面におけるポジティブインパクト(PI)を拡大すると考えられる。</p> <p>SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。</p> <p>「8.2」:多様化・技術向上・イノベーションを通じた経済生産性の向上 「9.1」:持続可能で強靱なインフラの開発</p>
移動や建設を代替することによる環境インパクトの創出	<p>新規事業である「adeliaeXR®」を通じ、これまで現地での建築や仮設設営が前提となっていたモデルハウス体験や展示・プロモーションを、没入型の XR 空間上で代替・高度化する取り組みを進めている。本事業は、映像・空間演出を組み合わせることで、実際の建築物を建設することなく、直感的かつリアルな体験提供を可能とするものである。</p>

	<p>これまでの不動産分野や展示分野においては、モデルハウス等の建築・解体に伴い、建設資材の使用や産業廃棄物の発生、ならびに建設・解体時のCO2排出が避けられない状況にあった。同社は、adeliaeXR®事業の導入により、こうした従来型の体験提供手法を見直し、環境負荷の低減につながる新たな選択肢を市場に提示している。</p> <p>今後、同事業の実施の効果を検証し、XR による体験提供が従来の建築方式の代替手段として有効であることを確認することで、モデルハウス等の建築・解体につなげていく方針である。本取り組みは、単に建築件数の削減にとどまらず、建設資材の使用抑制、廃棄物発生量の削減、ならびに移動・工事に伴う CO2排出量の抑制を通じ、環境負荷低減に寄与するものである。加えて、XR 技術を活用した体験価値の普及により、持続可能な事業運営モデルの確立を目指すものであり、同社が掲げる「ワクワクする未来を、カタチに。」というビジョンを、環境面から具体化する取り組みと位置付けられる。</p> <p>本インパクトは、UNEP FI のインパクトレーダーにおいて、「資源強度」「廃棄物」「気候の安定性」のエリアに該当し、自然環境面におけるポジティブインパクト(PI)を拡大すると考えられる。SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「11.6」:大気や廃棄物の管理を通じた都市の環境負荷低減 • 「12.5」:廃棄物の発生削減、再生利用の促進 • 「13.3」:気候変動対策に関する緩和および適応のための取り組み推進
<p>のびのびと、 生き活きと 働ける環境 づくりの実 現</p>	<p>同社は、事業の成長と同時に、社員一人ひとりが安心して能力を発揮できる働きやすい職場環境づくりを重視してきた。特に、在宅勤務やフレックスタイム制度の導入、育児や家庭との両立を支援する柔軟な勤務体制を整備し、多様な人材が長期的に活躍できる環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>今後、同社は人的資本を重要な経営基盤の一つと位置づけ、労働環境のさらなる改善と従業員のエンゲージメント向上を図るため、残業時間の低減、有給休暇取得率の向上、平均賃金の引き上げ、社内向けセミナーの実施していく方針である。</p> <p>具体的には、勤怠管理の精緻化や業務プロセスの見直しにより、長時間労働の抑制と業務効率化を図るとともに、有給休暇を取得しやすい職場風土の醸成に取り組む。また、事業成長による収益拡大を賃金水準の継続的な引き上げにつなげることで、従業員の生活の安定と働きがいの向上を目指す。加えて、事業理解やスキル向上、多様性・健康・キャリア形成等をテ</p>

	<p>マとした社内向けセミナーを実施することで、従業員の能力開発と中長期的な人材価値の向上を図っていく。</p> <p>これらの取り組みは、従業員の心身の健康維持やモチベーション向上を通じて、事業の持続的な成長を支えるとともに、同社が提供する価値の質を高めることにつながるものである。人材が安心して成長し続けられる環境を整備することで、同社は事業活動を通じた社会的価値の創出を一層推進していく考えである。</p> <p>本インパクトは、UNEP FI のインパクトレーダーにおいて、「雇用」「賃金」「健康及び安全性」「ジェンダー平等」のエリアに該当し、社会面におけるポジティブインパクト(PI)を拡大するとともに、労働環境に関するネガティブインパクトの低減につながると考えられる。</p> <p>SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「8.5」:すべての人々の完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワークの実現 • 「8.8」:労働者の権利保護および安全で安心な労働環境の促進 • 「5.1」:あらゆる場所におけるジェンダー不平等の撤廃
--	---

(5)インパクトニーズの確認

①国内のインパクトニーズ

国内における SDG インデックス&ダッシュボードを参照し、そのインパクトニーズと同社のインパクトとの関係性を確認した。なお、「SDG の達成を緑色」、「課題が残っている SDG を黄色」、「重要な課題が残っているを橙色」、「重大な課題が残っているを赤色」で示している。本PIFにおいて特定したインパクトに対応する SDGs のゴールは、以下6点である。

- ・「5:ジェンダー平等を実現しよう」
- ・「8:働きがいも経済成長も」
- ・「9:産業と技術革新の基盤をつくろう」
- ・「11:住み続けられるまちづくりを」
- ・「12:つくる責任 つかう責任」
- ・「13:気候変動に具体的な対策を」

国内における SDG ダッシュボード上では、「5」「12」「13」については「重大な課題が残っている」、「9」「11」については「重要な課題が残っている」、「8」については、「課題が残っている」とされており、同社の事業を通じた社会的インパクトの創出や環境負荷の低減、従業員の働きやすい環境の整備等が国内におけるインパクトニーズと一定の関係性を有することを確認した。



②沖縄県におけるインパクトニーズ

同社は、沖縄県を中心として事業を手掛けていることから、「沖縄県 SDGs 未来都市計画」を参照し、沖縄県内における SDGs 達成に向けての課題を確認した。下記のとおり、沖縄県は「一人ひとりがあらゆる場所で活躍できる社会の実現」「県経済の基盤となる安定的な雇用」「気候変動」、「基幹産業である観光分野における持続可能で責任ある観光の推進」への取り組みが重要な課題として位置づけられている。同社が展開する XR 事業「adelliaeXR®」は、物理的な移動や大規模な建築を伴うことなく没入感のある体験価値を提供することを可能とするものであり、観光分野を含む展示・プロモーションや不動産分野との親和性を有している。現地建築や頻繁な設営・解体を行わずに体験提供が可能となることから、観光振興に寄与しつつ、建設資材の使用抑制、廃棄物削減、移動負荷の軽減を通じた環境負荷低減につながる取り組みと位置付けられる。また、AI 経営支援およびデジタル戦略・DX 推進事業を通じて、観光関連事業者や地域事業者の事業企画力や情報発信力の強化、顧客体験の高度化を支援しており、観光産業を含む地域経済の付加価値向上や安定的な雇用創出に寄与している。加えて、在宅勤務やフレックスタイム制度の活用、労働時間管理の徹底、人材育成施策の推進など、人的資本への投資を通じた働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいる。

以上より、同社の事業活動は、沖縄県が掲げる「持続可能で責任ある観光の推進」「県経済の基盤となる安定的な雇用の創出」「気候変動への対応」等のインパクトニーズと一定の関係性を有

することを確認した。

「沖縄県 SDGs 未来都市計画」より沖縄県における 12 の優先課題を抜粋

- ①性の多様性(LGBT 等)、障がいの有無、国籍など、互いの違いを認め合い、一人ひとりが大切にされ、あらゆる場所で活躍できる社会の実現(多様性の尊重、個人の尊厳)
- ②医療・福祉の充実、健康長寿と生きがい、子どもを貧困から守る子育てしやすい暮らし
- ③地域への誇り(しまくとぅばの普及・推進等)と夢・目標をもてる学びの確保、教育の充実
- ④基幹産業として持続可能で責任ある観光(サステナブル/レスポンシブルツーリズム)の推進、観光との連携・相乗効果等も活用した産業振興(農林水産業におけるブランド化等)、県経済の基盤となる安定的な雇用
- ⑤日本とアジア・太平洋の架け橋となる物流・情報・金融の拠点
- ⑥気候変動に適応する強靱なインフラと交通網の整備
- ⑦多様な生物・生態系や世界自然遺産を含む自然に囲まれた環境の保全、エコアイランドの実現、自然と調和したライフスタイル。
- ⑧基地から派生する諸問題の解決の促進、平和を希求する沖縄として世界平和への貢献・発信
- ⑨共助・共創型の安全・安心な社会の実現
- ⑩ユイマール(相互扶助)の継承・人の和・地域の和
- ⑪地域・世代・分野・文化等を超えた多様な交流と連携の創出
- ⑫世界の島しょ地域における技術・経験の共有と国際貢献・グローバル・パートナーシップ

③琉球銀行が認識する社会課題との整合性

琉球銀行は「地域から親しまれ、信頼され、地域社会の発展に寄与する銀行」という経営理念を掲げ、琉球銀行グループとして「地域経済の好循環サイクルを実現し、地域とともに成長する金融グループ」を長期ビジョンとしている。また、重要課題(マテリアリティ)として、ステークホルダーとの関係において積極的に実現すべきテーマを「気候変動リスクの把握と対策」「地域全体の“仕事をこなす力”の底上げ」「ESG を勘案した投融資活動」「金融サービス拡大(高度化)への挑戦」「人的資源の開発」「コーポレートガバナンスの高度化」と整理している。加えて、実現を下支えするテーマを「ダイバーシティと機会均等」「労働安全衛生・健康経営の徹底」「持続可能な資源利用」「地域社会との積極的な関わり」「安全な金融商品の提供」「リスクマネジメント」と整理している。

アデリープランニング株式会社が特定したインパクトのうち、「事業成長と持続可能な社会的インパクトの創出」は、XR 事業や AI 経営支援、デジタル戦略・DX 推進を通じて、企業や地域の事業機会創出、生産性向上に寄与するものであり、琉球銀行が掲げる「地域全体の“仕事をこなす力”の底上げ」および「金融サービス拡大(高度化)への挑戦」と方向性が一致している。

また、「体験価値の高度化による環境インパクトの創出」は、XR 事業「adeliaeXR®」を通じ

て、建築・移動を伴わない体験提供を可能とし、建設資材の使用抑制、廃棄物削減、CO2 排出量の削減を図る取り組みであることから、琉球銀行の「気候変動リスクの把握と対策」および「持続可能な資源利用」という重要課題と整合的である。

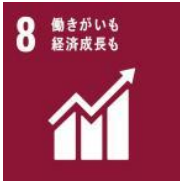

さらに、「のびのびと、生き活きと働ける環境づくりの実現」は、残業時間の低減、有給休暇取得率の向上、賃金水準の引き上げ、人材育成を目的とした社内向けセミナーの実施など、人的資本への投資を通じた取り組みであり、琉球銀行の「人的資源の開発」に加え、「ダイバーシティと機会均等」および「労働安全衛生・健康経営の徹底」といった下支えテーマとも方向性を同一にするものである。

以上より、琉球銀行は、本件においてアデリープランニング株式会社が推進する取り組みが、SDGs の達成および貢献に向けた取り組みであると同時に、当行が認識する重要な社会課題およびマテリアリティと整合的であると評価した。

3.KPI の設定

特定したインパクトの発現状況を今後も継続的に測定可能なものとするため、先に特定したインパクトに対し、インパクトの種類、インパクトトピック、関連する SDGs、内容・対応方針および目標と KPI を整理、設定する。

(1)事業成長と持続可能な社会的インパクトの創出

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面・社会経済的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトエリア・トピック	「住居」「移動手段」「インフラ」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・XR 事業「adelliaeXR®」を新たな成長ドライバーとして位置づけ、既存の AI 経営支援、デジタル戦略・DX 推進、コンテンツ制作事業との相乗効果を図りながら、中小企業を中心した経営力強化や情報発信力の向上に貢献する。 ・XR を活用した体験価値の高度化により、取引先企業の事業機会創出や情報発信力の向上に貢献するとともに、移動・建築・資源使用の削減等を通じた社会・環境面での波及効果の創出を図る。 ・事業活動を通じて、経済的価値の創出と社会課題の解決の両立を実現し、地域経済の活性化に寄与する取り組みを推進する。
目標と KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2029年3月期までにXR事業の売上高700百万円を達成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・2026年3月期 売上高1.4百万円 ・2029年3月期までに同社全体の売上高740百万円を達成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・2026年3月期 売上高337百万円 <p>※いずれも2030年3月期以降の目標は改めて設定する</p>

(2)移動や建設を代替することによる環境インパクトの創出

項目	内容
インパクトの種類	自然環境的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトエリア・トピック	「資源強度」「廃棄物」「気候の安定性」

<p>関連する SDGs</p>	  
<p>内容・対応方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・XR 事業「adeliaeXR®」の導入効果として、モデルハウス等の建築・解体を伴わない体験提供による環境負荷低減効果を検証する。 ・不動産分野や展示・プロモーション分野において、XR による体験提供が従来型の建築手法の代替として機能することを確認した上で、建設資材の使用抑制、廃棄物削減、移動・工事に伴う CO₂排出量削減につなげていく。 ・XR を活用した体験提供の普及を通じて、環境負荷の低い持続可能な事業モデルの確立を目指す。
<p>目標と KPI</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・adeliaeXR®事業によるモデルハウス等の建築抑制効果を2026年度に検証を行い、2031年度までに建築等の削減件数を延べ3件以上とする。 <p>※2032年3月期以降の目標は改めて設定する</p>

(3)のびのびと、生き活きと働ける環境づくりの実現

項目	内容
<p>インパクトの種類</p>	<p>社会的側面においてポジティブインパクトを拡大 社会的側面においてネガティブインパクトを緩和</p>
<p>インパクトエリア・トピック</p>	<p>「賃金」「健康及び安全性」</p>
<p>関連する SDGs</p>	
<p>内容・対応方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勤怠管理の精緻化や業務プロセスの見直しを通じて、長時間労働の抑制および残業時間の低減を図るとともに、有給休暇を取得しやすい職場風土の醸成に取り組む。 ・事業成長による収益拡大に従業員の賃金水準の継続的な引き上げにつなげ、生活の安定と働きがいの向上を実現する。 ・社内向けセミナーの実施を通じて、事業理解の深化、スキル向上、多様性や健康、キャリア形成に関する意識向上を図り、中長期的な

目標と KPI	人材価値の向上に取り組む。
	<ul style="list-style-type: none"> ・2029年3月期までに月間平均残業時間を15時間とする。 直近3期平均:18.83時間 ・2029年3月期までに有給休暇取得率70%以上とする。 2026年3月期:41.7% ・2027年3月期から2029年3月期まで、賃金を每期前期比6%引き上げる。 ・自己理解力や業務効率改善につながる社員向けセミナーを年6回開催する。 <p>※いずれも2030年3月期以降の目標は改めて設定する</p>

4. モニタリング

(1) 同社におけるインパクトの管理体制

アデリープランニングの榎本代表取締役を中心に自社の主要事業の棚卸を行い、本 PIF におけるインパクトの特定並びに KPI の設定を行った。

今後、本件で設定した目標・KPI の進捗状況については、以下の体制を中心とした部署が中心となり、SDGs の推進、本 PIF で設定した KPI の進捗管理を行っていく方針である。

統括責任者	アデリープランニング株式会社 代表取締役 榎本泰子
モニタリング担当部署	管理統括
報告担当部署	管理統括

(2) 当行によるモニタリング

本 PIF で設定した KPI 及び進捗状況については、同社と琉球銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。情報共有については、少なくとも年に1回実施することに加え、日々の情報交換や営業活動を通じて実施していく。また、KPI の達成状況については、当行ホームページにて公表を行う。

(3) 下記の通り、融資返済期限と同一期間にて定める。

モニタリング期間(返済期限)	10年間
----------------	------

以上

留意事項

1. 本評価書の内容は、琉球銀行が現時点で入手可能な公開情報に加え、アデリープランニング株式会社から提供された情報や同社への事業に関するヒアリングを通じて収集した情報に基づいて、現時点での状況进行评估したものであり、将来における実現可能性、ポジティブ要素の成果及びネガティブ要素の抑制等を保証するものではありません。
2. 本評価を作成するために活用した情報は、琉球銀行がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。琉球銀行は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証するものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は琉球銀行に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用(複製、改変、翻案等を含む)は禁止されています。